

拝啓 お釈迦様

郡上市浄流寺 北村雄平

暑さ厳しき折から、ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。平素より、いし、かわら、つぶてのような私ごときの為のご精進、心より感謝申し上げます。

お釈迦様がこの世にお生まれになり、阿弥陀仏のご本願をお説きになられてから幾星霜、幾多の先人たちを経て現代を生きる私のところまで無事に届いておりますことをお報せしたく、初めてお手紙いたします。

さて、私は現在、お釈迦様の故郷インドから遠く離れた日本という国の岐阜県郡上市というところで、お寺の住職をさせていただいております。こちらは過疎化と高齢化のすすむ山間の集落にある小さな小さなお寺でございます、貧乏ヒマなしとはよく言ったもので、ドタバタと忙しい毎日を送っているわりにはなにかと余裕はございませんが、それでも結構幸せな日々を送らせていただいております。というのも、うちのお寺には近所の子もたちが毎日のように遊びに来てくれます。私が仕事から帰ると、我が子のみならず近所の子もたちまでもが、

「とーちゃん、おかえりなさいーい」

と出迎えてくれたり、作務のお手伝いをしてくれていたりと、大勢の子もたちに囲まれて、本当に幸せいっぱいでございます。

近頃では、自坊で里親業をはじめの準備に取り掛かっているところでございます。一口に里親と申しましても色々ありまして、私の場合は、様々な事情により家庭で生活することが困難な子どもたちを実親の代理で育てる養育里親というものを目指しております。子どもたちの保護されてくる原因としては、虐待や育児放棄などさまざまでございます。

幸いにも私は、大変若い時にお念仏に出遇うことができました。そして、南無阿彌陀佛とお称えする事により、私は仏様の側から「仏弟子」としてのアイデンティティーを賜りました。私は、現代社会に生きる在家の一生活者ではございますが、仏教に育てられた一社会人として菩薩道を歩んで参る所存でございます。かつてお釈迦様が、人生の方向性を見失っていた私に、南無阿彌陀佛をして「仏弟子」として生きる方向を定めてくださったように、私も今後、縁あって預かることになる、不幸にも家庭を失った、損なってしまった子どもたちに我が家を提供し、自称・日本一の団欒一家に迎え入れることで、我が子としての新しいアイデンティティーをプレゼントし、人生を仕切り直すきっかけのお手伝いをする。そんな仕事に挑戦したいと思っています。

何卒、お見守りいただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

南無阿彌陀佛

敬具